

学生の育ちに関する一考察

前 田 キミヨ
岡 本 雅 子

1. はじめに

昨今の保育現場では、様々なニーズに応えるために、質の高い保育者が求められている。しかし、入学してくる学生達は年々幼くなり、保育者たるに不足感を否めない。責任ある保育者養成校として、危機感を募らせる一方である。特に、学生の基礎学力、生活技術、コミュニケーション能力の低下、実体験不足は、幼児教育・保育科教員間で問題視されている。このような現状から、我々は、目前にいる学生達の保育者資質を高めるために、様々な取り組みを行ってきた。少人数クラス編成、入門セミナーの導入もそうであるし、行事への取り組みもそうである。特に行事に関しては、本来ならば学生の自主的活動であることが望ましい場面が多々あると理解しながらも、教員のサポートなしでは立ち行かなくなってきたのが現状である。確かに、学生一人一人へのきめ細かな対応により、又、行事、実習を経験して、学生達が様々な面で成長をしていると実感している。しかし、果たして我々が育てたいと願う点において成長しているのだろうか。又、学生達は自分が成長していることを実感し、充実感や達成感を味わっているのだろうか。

新年度には、絶対評価で育った学生達が入学する。そのような転換期を迎えるに当たり、如何にして保育者資質を高めるかを検討する材料として、在学している学生達の意識を調査し、今後の学生指導、授業内容の充実に役立てたいと思う。

2. 意識調査について

幼児教育・保育科学生、1・2年生に対し、40項目のアンケート調査を行った(資料1)。実施日は1年の締めくくりである1月の通常授業期間。各質問項目に対し、強く思うものは5、そう思うものは4、どちらでもないものは3、あまり思わないものは2、全く思わないものは1とする5段階評価。40項目の質問は、人間関係に関する質問(1～10)、グループ活動に関する質問(11～20)、生活に関する質問(21～30)、動き・身体に関する質問(31～40)を各10問ずつ設定した。尚、科の主たる行事にどのような関わりをしていたかを知るために、わいわく委員(1年次・2年次)、青い空各リーダー、とんとん踊り参加者、クラス委員長、ゼミ長、学生会を問い、又、クラス間格差を知るために、実技時のクラス編成(A・BC・D)を問うことにした。

口頭で強調した点は、「入学当初の自分

と比べて」であることと、5段階の「強く思うものが5」であることである。又、学生の理解に差があることが予測される質問項目に関して、口述で以下のような具体例を示した。

2. 異年齢の人と仲良くなった→「他学科、他学年、同級生を含む」
21. 時間を大切に→「時間を守る、無駄にしない」
22. 他人と時間や意見を調整する→「人に合わせる」
25. 生活のリズムが規則正しくなった→「食事・睡眠・起床等」
26. 事前の見通しを立てて行動する→「課題・スケジュール等」
29. 保育者らしい身だしなみ→「髪型・化粧・服装等」
30. 生活技術→「入門ゼミ第1回目にチェックした箸使い・鉛筆の持ち方等」

3. 調査結果について

回答者数は1年生128名(A42名・BC42名・D44名)、2年生116名(A36名・BC40名・D40名)である。1年生であるにも関わらず、2年次のわいわく委員、ゼミ長、青い空のリーダー(全て2年生対象)全てに○をつけていたもの1名、及び、ピンクのペンを使用し、全ての項目に対し3段階の評価を記入したもの1名に関しては、無効回答として取り扱った。又、無回答欄があるものに関しては、それ以外の回答を有効として扱った。有効回答者数は、1年生127名(A41名・BC42名・D44名)、2年生115名(A36名・BC40名・D39名)の合計242名である。

調査結果の平均値を、学年毎、クラス毎にまとめたものが資料2-1、1年次のわいわく委員(1年生)、豊橋祭り「とんとん踊りコンテスト」に幼児教育・保育科チームとして参加した1年生、どちらにも関わっていない1年生をまとめたものが資料2-2、1年次にわいわく委員(2年生)、2年次にわいわく委員(2年生)、昨年度豊橋祭り「とんとん踊りコンテスト」に幼児教育・保育科チームとして参加した2年生をまとめたものが資料2-3、ゼミ長(2年生)をまとめたものが資料2-4である。

4. 調査結果からの考察

(1) 学年の比較(資料2-1参照)

資料2-1は、学年毎に、クラス平均と学年平均を並べたものである。クラス平均は、母数が少なくなるため個人の影響が若干表れるが、ほぼ同様の傾向であるので、以下は、学年差について述べる。

各項目の評価平均値を学年で比較すると、以下のような傾向が見られる。まず、40項目中28項目において、2年生の評価平均値が高い。その内訳は、人間関係に関する質問10項目全て、グループ活動に関する質問10項目中5項目、生活に関する質問10項目中6項目、動き・身体に関する質問10項目中7項目である。

1年生と比較して、2年生の評価平均値が高い項目の中でも、差が顕著なものは、「18. 保育技術が身についた」「8. 子供と接することが得意になった」という、幼教生ならではの項目で、1年生との差が大きいものもある意味当然であり、保育者に向かって育っている様子が窺える。又、「4. 先生と話をするようになった」「5. 先生に顔や

名前を覚えてもらった」「6. 職員の方と話をするようになった」「10. 家族の協力があつた」という項目で2年生の評価が高くなるのは、本学教職員のサポート体制の充実、家族のサポートの有難さを、行事・実習・就職活動を通して、2年生でより強く実感するからではないかと考えられる。

逆に1年生の方が平均値が高いものは、「21. 時間を大切にできるようになった」「27. 課題や提出物の期限を守るようになった」である。これらに関しては、2年生の方が1年生に比べて身につけていると認識していたため、少々意外な感がある。1年生にしてみれば、今までの生活との大きな違いが、時間に対する厳しさということなのだろうか。確かに、入学直後から挨拶・時間に関しては繰り返し指導されている。もしも2年生にとって、当然のこととして定着している結果、強く意識されないのだとすれば、それは嬉しいことである。これに関しては、現1年生の意識が一年後にどのように変化するのか、その結果から考えたいと思う。

両学年において評価平均値の高い項目は、「1. 友達が増えた」「3. クラス、学科の仲間意識が強くなった」「12. 仲間と一緒に喜びや楽しさを味わった」「13. 一人ではできないアイデアの発展や展開があつた」「14. 友人の影響で自分が成長した」である。このことから、今の学生が非常に大切に思っている仲間関係において、満足度が高いと思われる。それは、少人数クラス編成、グループ活動の多用、行事への取り組みが功を奏しているからではないかと考えられる。

(2) 1年生、わいわく委員、とんとん踊り参加者について（資料2-2参照）

1年生は、1月の調査時点において、保育実習（1週間）、とんとん踊り（希望者）、学園祭（わいわいランドわくわく広場）しか経験していないため、その行事に深く関わったか否かによって特有の傾向が見られるため、その特徴を述べる。

資料2-2は、1年生のわいわく委員、とんとん踊り参加者、両方を兼ねる者、どちらにも関わっていない者の、評価平均値を並べたものである。

まず、わいわく委員に顕著な項目は、「2. 異年齢の人と仲良くなった」「12. 仲間と一緒に喜びや楽しさを味わった」「16. 人の意見を聞くようになった」「38. 集団行動が取れるようになった」である。学科全体で取り組む行事にクラスの代表として参加し、組織的な活動を経験した者ならではの特徴が表れている。

次に、とんとん踊り参加者に顕著な項目は、「31. 体力がついた」「32. 筋力がついた」「34. 行動が早くなった」「35. 動きを覚えるのが早くなった」「40. 人前で演技をすることが楽しくなった」である。このことから、身体や動き面での成長の自覚が顕著であることがわかる。

更に、これら両方に共通する傾向は、「5. 先生に顔や名前を覚えてもらった」「7. 初対面の人と接することができるようになった」「8. 子どもと接することが得意になった」「17. 人に意見を言えるようになった」「19. 気配りができるようになった」「20. 忍耐力がついた」「36. リズム感がよくなった」「37. 表情がよくなった」の平均値が高いことである。共通の目的に向かって、多くの人と接し、時には自分を抑えて取り

組んだ結果、成長したと自覚された項目であるが、保育者として最低限身につけたいこと、或いは、身につけていることが大前提である項目である。行事に積極的に参加することによる、保育者資質の向上は、期待できるものであると考えられる。

又、わいわく委員であり、とんとん踊りに参加した者に関しては、全体的には、意識が高い傾向にあるのだが、13名と母数が少ないため個人差の影響を受け、特徴が判りにくくなっている。13名中の2名が男子学生なのだが、彼らの回答が1か5かという極端な傾向にあるからだ。男子学生の方が、自分の思いや理想が強い、ということは教員間で認識されているが、おそらくそのことが極端な回答につながっているのではないか。今後は、男子学生が女子学生と異なる感じ方、意識を持っていることを考慮し、質問紙に何らかの工夫が必要であると感じた。

尚、どちらにも関わっていない者(75名)の評価平均値は、多くの項目において学年平均値を下回る。このことから、行事への関わり方と意識の高さや成長の度合いの関連が見られる。しかし、行事参加者に比べると低いものの、「1. 友達が増えた」「12. 仲間と一緒に喜びや楽しさを味わった」「13. 一人ではできないアイデアの発展や展開があった」「14. 友人の影響で自分が成長した」は平均が高い傾向にある。つまり、行事に積極的に参加していない者でも、少人数クラス編成、グループ活動の多用、学科としての行事への取り組みを経て、仲間作り或いは居場所作りや、仲間と共通の喜びを得ることに関しては、成功していると思われる。「大学が楽しい」ということは良く耳にするが、その言葉通

りの結果が表れているように思う。1年生の退学者ゼロ(休学1名)も、その一つの現れであろう。しかし、保育者としての成長を考えると、学年の半数以上を占める、行事受け身型、消極型の学生を如何に育てるかが今後の課題である。

(3) 2年生、わいわく委員、とんとん踊り参加者について(資料2-3参照)

2年生に関していうと、わいわく委員やとんとん踊り参加者に特有の傾向は表れなかった。これは、とんとん踊りに参加したのは1年以上前のことであり、又、学園祭(わいわいランドわくわく広場)以外に、教育実習(1年次・2年次、計4週間)、保育実習(3週間)、施設実習(宿泊1週間)、青い空コンサート、就職活動等多くの経験をするため、個々の行事の影響は薄れるからであると思われる。

(4) 2年生リーダーについて(資料2-4参照)

2年生の中でも、ゼミのリーダーを任されている学生は、全体的に学年の評価平均値を上回っている。これは、リーダーを任される学生は、周りから期待や信頼をされ、又、それを自覚して邁進しているからであろう。

その中でも特徴的なことをあげると、まず、「2. 異年齢の人と仲良くなった」「4. 先生と話をするようになった」「5. 先生に顔や名前を覚えてもらった」「6. 職員の方と話をするようになった」の評価平均が高いことである。これは、リーダーの役割を考えると、容易に納得がいく。

又、「9. 家族との話題が増えた」「10. 家族の協力があつた」も評価平均が高い。このことから、2年生は総じて1年生よ

りも家族のサポートを実感しているが、特にリーダーは家族に支えられ、又それを実感していると思われる。

その他に特徴的なことは、生活面（21～30）の評価平均値が高いことである。10項目中、7項目において2年生の平均値を上回っている。このことから、リーダーとして人の前に立つ機会の多さが、人に見られる存在としての自覚を促し、自らを律するようになったのではないかと考えられる。他の項目で平均値が高いであろうことは予測していたが、生活面にその成長の度合いが表れるとは思っておらず、「人前に立つ」意義の多面にわたる効果を、今後の指導に活かしたいと思う。

5. 総 括

今回の調査において、行事を経験するとどのような点において育つのか、おおよその傾向がつかめたと思う。では、学生は行事における何を契機に育つのか。以下は、学園祭「わいわいランドわくわく広場」指導担当責任者として、ここ数年来感じていることである。

まず、ほとんどの学生達が「やってよかった」「来年もやりたい」と後述している。このように感じる理由の一つとして、大人数ではなく、少人数のクラス、ゼミの単位で自分の役割を実感する機会が多く、学生同士の人間関係の中で、自分の存在価値、存在意義を見出すことが多いのではないかと。最近の学生は、少人数の方が自分を発揮しやすい傾向が見られる。従って、少人数クラス、ゼミでの企画、出し物は、充実感・満足感を得やすいように感じる。どの程度の人数構成が適正であるのかについては、今後検討したい。

又、「来年もやりたい」と答える1年生が多いのは、2年生という身近なモデルの頑張りが、輝いている姿への憧れが影響していると感じている。「先輩のようにやれるか心配だ。でもやってみたい。」という記述が、行事直後に多く見られるからだ。1年生では訳が分からないまま過ぎることもあるであろうが、先輩の姿の記憶や自分自身の経験を踏まえて、2年生ではある程度「見通しを立てて行動する」ことも見られる。ここ数年、最近の実習生、新任について「言われないとわからない」という言葉を耳にするが、異年齢の学生が一つの行事に取り組むことは、身近なモデルから「見て学ぶ」経験のチャンスであると思う。

更に、学園祭の場を借りて、地域の親子と関わりを持つ機会は、付属園を保有しない本学の学生にとって、子供と触れあい、親子の関わりや親の様子を実感できる、授業では経験できない貴重な経験の場としての意義も大きい。

本来は、学生の自主的活動である学園祭で、学科として関わることは様々な問題や矛盾も包括している。しかし、学生が育つ、貴重な学びの場であることは確かである。我々教員は、組織的・効率的にその効果が得られるように援助する必要があるであろう。例えば、2年生の委員は、どのようにすれば1年生に対して効果的にアドバイスできるのか。役員構成やグループ分けについても、ある程度、教員側の誘導が必要である。学生に何を体験させ、何を育てるのか。今回の調査を元に、質問項目や方法を精査し、継続調査することにより、保育系学生として必要な「育ち」が得られる行事、我々の関わり方について、今一度検討する必要があるであろう。

〈資料1〉意識調査質問項目

1. 友達が増えた
2. 異年齢の人と仲良くなった
3. クラス、学科の仲間意識が強くなった
4. 先生と話をするようになった
5. 先生に顔や名前を覚えてもらった

6. 職員の方と話をするようになった
7. 初対面の人と接することができるようになった
8. 子どもと接することが得意になった
9. 家族との話題が増えた
10. 家族の協力があった

11. グループ活動が好きになった
12. 仲間と一緒に喜びや楽しさを味わった
13. 一人ではできないアイデアの発展や展開があった
14. 友人の影響で自分が成長した
15. 人前で意見を発表したり、実技ができるようになった

16. 人の意見を聞くようになった
17. 人に意見を言えるようになった
18. 保育技術が身についた
19. 気配りができるようになった
20. 忍耐力がついた

21. 時間を大切にするようになった
22. 他人と時間や意見を調整するようになった
23. 誰にでも挨拶できるようになった
24. 言葉遣いを気にするようになった
25. 生活のリズムが規則正しくなった

26. 事前の見通しを立てて行動するようになった
27. 課題や提出物の期限を守るようになった
28. 課題や練習によって授業に支障があった
29. 保育者らしい身だしなみを意識するようになった
30. 生活技術が身についた

31. 体力がついた
32. 筋力がついた
33. 姿勢がよくなった
34. 行動が早くなった
35. 動きを覚えるのが早くなった

36. リズム感がよくなった
37. 表情がよくなった
38. 集団行動が取れるようになった
39. 他の人と動きや気持ちを合わせられるようになった
40. 人前で演技することが楽しくなった

〈資料 2-1〉

1年生

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	合計	平均
1A	4.3	3.2	3.9	3.7	3.7	3.2	3.6	3.8	3.8	3.8	3.5	4.1	4.3	4.1	3.9	3.8	3.6	3.8	3.6	3.8	4	3.8	3.8	3.8	3	3.3	4	3.6	3.5	3.2	3.3	3.2	3	3.3	3.6	3.5	3.7	3.8	3.8	3.6	146	3.6
1BC	4.5	3.7	4.3	3.4	3.7	3.1	3.5	3.6	3.2	3.8	3.7	4.5	4.4	4.3	4	4	3.8	3.7	3.8	3.6	3.7	3.9	3.8	3.7	2.9	3.2	3.8	3	3.2	3.2	3.3	3.1	3	3.1	3.5	3.3	3.4	3.7	3.8	3.7	145	3.6
1D	4.3	3	3.8	3.5	3.7	3	3.6	3.8	3.5	3.8	3.8	4.3	4.3	4.1	3.8	4	3.6	3.4	3.7	3.7	3.9	3.8	3.9	3.9	3.2	3.6	3.9	3.4	3.3	3.2	3.3	3.1	3	3.4	3.6	3.7	3.8	3.8	3.8	3.7	145	3.6
平均	4.4	3.3	4	3.5	3.7	3.1	3.6	3.7	3.5	3.8	3.7	4.3	4.3	4.2	3.9	3.9	3.7	3.6	3.7	3.7	3.9	3.8	3.8	3.8	3	3.4	3.9	3.3	3.3	3.2	3.3	3.1	3	3.3	3.5	3.5	3.6	3.8	3.8	3.7	145	3.6

2年生

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	合計	平均			
2A	4.4	3.4	4.1	4	4.1	3.6	4.1	3.5	4.2	3.6	4.6	4.4	4.2	3.8	4	3.7	4	3.8	3.9	3.7	3.9	4	4.1	3.1	3.6	4	4.1	3.1	3.6	4	3.6	3.4	3	3.1	2.9	3	3.5	3.6	3.8	3.9	3.7	3.9	3.6	150	3.8
2BC	4.4	3.9	4	3.8	4.1	3.5	3.6	4.2	3.7	4.3	3.4	4.3	4.4	4.2	3.8	3.9	3.7	4.2	3.8	3.7	3.4	3.7	3.9	3.6	3.1	3.3	3.6	3.5	3.5	3.4	3.5	3.2	3.1	3.3	3.6	3.6	3.8	3.8	3.9	3.8	3.7	148	3.7		
2D	4.5	3.5	4.4	4	4	3.6	3.9	4.2	3.5	4.1	3.8	4.6	4.6	4.3	4.1	4.1	4	4.3	3.8	4	3.8	3.9	3.8	4.1	3.2	3.4	3.6	3.6	3.7	3.3	3.5	3.1	3.2	3.4	3.6	3.6	3.9	3.9	4.2	3.7	154	3.9			
平均	4.4	3.6	4.2	3.9	4	3.6	3.7	4.1	3.6	4.2	3.6	4.5	4.5	4.2	3.9	4	3.8	4.2	3.8	3.9	3.6	3.8	3.9	3.9	3.1	3.4	3.7	3.5	3.6	3.2	3.4	3.1	3.1	3.4	3.6	3.6	3.9	3.8	3.9	3.7	151	3.8			

〈資料 2-2〉

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	合計	平均
わいわく (1年生)	4.6	3.6	4.2	3.6	4	3.1	3.8	3.9	3.4	4	3.8	4.7	4.5	4.3	4.1	4.3	3.9	3.5	4.1	4	4	4	3.8	3.6	3.2	3.3	4	3.4	3.2	3.3	3.3	3	3	3.2	3.6	3.8	3.9	4.1	3.8	3.7	151	3.8
とんとん (1年生)	4.4	3.4	4.1	3.7	4	3.3	3.8	4	3.6	3.8	3.8	4.5	4.4	4.2	4.1	4.1	3.9	3.7	3.9	4.1	3.9	3.7	3.9	3.1	3.6	4	3.2	3.4	3.3	3.5	3.4	3	3.6	3.8	3.8	4	3.9	4	3.9	151	3.8	
わいわく& とんとん	4.6	3.3	4.3	3.5	4.3	3.1	3.9	4.1	3.5	4.2	3.8	4.8	4.7	4.3	3.9	4.4	3.8	3.6	4.1	4.4	4.4	3.9	3.8	3.8	3.1	3.6	4.2	3.2	3.1	3.3	2.9	2.8	2.8	3.3	3.6	3.8	4.1	4	3.9	3.8	152	3.8
どちらも関 わっていない	4.3	3.1	3.9	3.5	3.5	3	3.4	3.6	3.5	3.8	3.6	4.2	4.2	4.1	3.8	3.8	3.5	3.6	3.5	3.5	3.9	3.9	3.8	3.8	3	3.3	3.9	3.4	3.3	3.1	3.1	3	3	3.1	3.4	3.3	3.5	3.6	3.7	3.5	141	3.5

〈資料 2-3〉

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	合計	平均
1年生次 わいわく	4.5	3.8	4.2	4	4.2	4	4	4.4	3.9	4.5	3.8	4.6	4.6	4.2	3.9	4.3	4	4.2	4	4	4	4	4.3	4.2	3.4	3.6	3.6	3.3	3.8	3.7	3.7	3.4	3.6	3.6	3.8	3.8	4.4	4.1	4.1	4	158	3.9
2年生次 わいわく	4.4	3.8	4.2	4	4	3.8	3.8	4.2	3.7	4.3	3.8	4.6	4.5	4.3	4.2	4	3.8	4.3	3.9	4.1	3.7	3.9	4.2	4	3.2	3.5	3.9	3.5	3.7	3.6	3.5	3.2	3.2	3.6	3.8	3.7	3.8	3.9	4.1	3.8	155	3.9
とんとん (2年生)	4.6	3.8	4.2	4	4.1	3.8	3.6	4.1	3.7	4.1	3.7	4.6	4.7	4.2	4.1	4.1	4	4.3	3.8	4	3.6	3.8	4.2	4	3	3.2	3.4	3.6	3.4	3.5	3.6	3.2	3.2	3.6	3.6	3.7	4	3.9	4	4	153	3.8
学年平均	4.4	3.6	4.2	3.9	4	3.6	3.7	4.1	3.6	4.2	3.6	4.5	4.5	4.2	3.9	4	3.8	4.2	3.8	3.9	3.6	3.8	3.9	3.9	3.1	3.4	3.7	3.5	3.6	3.2	3.4	3.1	3.1	3.4	3.6	3.6	3.9	3.8	3.9	3.7	151	3.8

〈資料 2-4〉

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	合計	平均
セミ長 (2年生)	4.4	4.3	4	4.3	4.4	4.3	3.6	4	3.9	4.7	3.6	4.1	4.6	4.4	4.3	4.1	3.9	4.4	4.1	4	3.6	4	4.3	3.7	3.6	3.6	4.1	3.7	3.9	3.4	3.3	3.3	3.6	3.3	4	3.4	4	4	4.3	4.1	135	3.4
学年平均	4.4	3.6	4.2	3.9	4	3.6	3.7	4.1	3.6	4.2	3.6	4.5	4.5	4.2	3.9	4	3.8	4.2	3.8	3.9	3.6	3.8	3.9	3.9	3.1	3.4	3.7	3.5	3.6	3.2	3.4	3.1	3.1	3.4	3.6	3.6	3.9	3.8	3.9	3.7	151	3.8